

事務事業評価表 平成24年度

政策 環境と調和する都市の構築  
 施策 人と地球にやさしい環境の創出  
 基本事業 安全な地域環境の保全

事業名 **自然環境保全経費**

[0023]

部名	生活環境部	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	環境室環境課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果		
対象	(誰、何に対して事業を行うのか) 傷病動物	(事務事業の内容、やり方、手段) 市民が傷病鳥獣を保護した時に、指定動物病院に収容治療し、自然回帰させるために必要な治療用資材を提供。
意図	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか) 傷病鳥獣を適切に治療し自然に回帰させる。	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	収容した鳥獣数	羽・匹	6	6	5	5
対象指標2						
活動指標1	指定病院数	病院	4	4	4	4
活動指標2						
成果指標1	自然回帰した数	羽・匹	3	3	3	5
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	21	23	21	32
正職員人件費 (B)		千円	830	806	803	809
総事業費 (A) + (B)		千円	851	829	824	841

費用内訳	
23年度	需用費 21千円

# 事業を取り巻く環境変化

事業開始  
背景

事業を  
取り巻く  
環境変化

## 23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業  
妥当である  
妥当性が低い

理由  
・  
根拠は？

傷病野生鳥獣の保護・治療は、指定病院等で対応することであるが、初期対応は市民と行政が連携して行なわなければならない。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい  
貢献度ふつう  
貢献度小さい  
基礎的事務事業

理由  
・  
根拠は？

保護・治療は野生鳥獣と共生する上で欠かせない。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている  
どちらかといえばあがっている  
あがらない

理由  
・  
根拠は？

広報等により野生鳥獣との接し方等についてPRを行っている。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大  
成果向上余地 中  
成果向上余地 小・なし

理由  
・  
根拠は？

継続して広報等で周知することにより、初期対応の増加が期待できる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある  
ない

理由  
・  
根拠は？

必要最低限のコストで実施している。